（別紙4（2））

事業所名　元気ホーム北松戸

作成日：平成　30年　4月　9日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目　標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念として掲示されているものは実際には職員の行動方針であり、「私たちの目指すグループホームとは」という見方としては十分でない。	どの様なケアを行うのか、何を目指して活動するのかを明確にわかりやすい言葉にして職員間で共有する。	法人としての考え方、施設運営でこれまで培ってきたものをまとめ、「私たちの目指すグループホーム像」を職員とともにまとめていく。できあがったものは研修や指導でとりあげ、各職員が趣旨を理解できる様にしていく。	12カ月
5	6	介護相談員の利用者との面談結果が断片的にしか職員に報告されていない。	相談結果と、そこからどの様な要望や課題が見えてくるのかを介護職員と話し合い、ケアに活かす。	定期的に開く職員内の会議で介護相談員の報告をまとめて発表し、対応を検討する。	6カ月
2	7	有給休暇を十分に使えていない。フロアリーダーの業務負担が大きい。	職員人数を充足させ、無理なく休暇がとれる様にする。フロアリーダーの仕事を各スタッフに分散させることとリーダーどうしやリーダーと施設長などで相談ができる場を設ける。	採用活動と新人育成の継続。リーダーの仕事のうち、アセスメントや居室管理などを担当を割り振って他の社員にも分担させる。定期的にリーダーと施設長、経営者を交えた会議を開き悩みや問題点を相談する。	6カ月
4	9	個人生活記録（日誌）を読んでいてもその記録や活用の状態が見えず、十分に活かせていない。	個人生活記録（日誌）を個別ケアの材料として活かし、内容を職員間で共有する。	個人生活記録（日誌）にその利用者ごとの課題に関する内容を意識的に記入する様にし、全員で回覧する。読んだらサインを行い、回覧の記録とする。カンファレンスの際に課題に関する内容をピックアップして検討する。	6カ月
3	14	研修や指導を行っても声掛けが雑になる職員もおり、なかなか改善されない。	特に必要と思われる職員には重点的にケアを行い、改善につなげる。	特に必要と思われる職員に事業所内、外の研修を繰り返し行い、又悩みなどがないか相談して改善を目指す。全体に対しても繰り返し理念や方針を周知してケア内容がなれ合いになってしまわないように働きかける。	12カ月

注）項目の欄については、自己評価項目の№を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。